クレジット:
UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2017堀内秀樹

ライセンス:
利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

BY NC ND

文化遺産・世界遺産を結節する文化資源・陶磁器

堀内　秀樹
（東京大学埋蔵文化財調査室）

はじめに

「文化資源」、「文化遺産」、「世界遺産」は同じベクトルを持ったものなのか？
→何を資源と考えるのか？
何に対する資源ととらえるのか？
※あくまでも今日的評価の中で差別化
評価の重要性：人間の活動がどのように行われたのか？
→それにもとなって形成された視点、規範、嗜好→無形文化遺産
生産・消費された形象資料
ex, 構造物（単体、複合）→世界遺産
組織・技術→無形文化遺産
モノ→？
〇行為の痕跡化→種々の評価資料（＝文化資源）となる→**総体を評価する視座**

１．人間の活動を探る文化資源・陶磁器

（１）文化とは？

「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容とを含む。文明とほぼ同義に用いられることが多いが、西洋では人間の精神的生活にかかわるものを文化と呼び、技術的発展のニュアンスが強い文明と区別する。」（広辞苑第六版）→人間の活動
〇飛鳥文化、天平文化、白鳳文化、元禄文化etc.
→連想するものは？
・創られた文化－認知されやすい、流行の創出
・できた文化－認知されにくい
→行為と道具

photo by Janine Cheung,from flickr
ref.20180116
https://www.flickr.com/photos/sunday_driver/142841397/
CC BY-NC-SA 2.0

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました

雷紋のはいった丼の図

文化の理解

CC BY-NC-ND

（２）日本を取りまく諸環境

①自然的環境：自然的、地理的・・・

ex, 日本の地理的位置→東アジアの東縁

・日本より東・北に国際関係に影響するような国（市場）が存在しない

・対外交流・交易は常に西あるいは南と

→近世末の黒船来航まで　（移動のシステムにより変化）

②人文的環境：歴史的、経済的、社会的、文化的・・・

※独自の歴史的成立・発展過程（時代、地域＝キーワード）

→人間の活動（社会的・経済的・文化的）に大きな影響を与えている

→その範囲を正確に理解する必要

こうした影響下で、歴史的展開がある（先史時代、古代、中世、近世、近代）

（３）多地域をつなぐ交易

・景徳鎮（中国）、漳州窯（中国）、伊万里（日本）

・アユタヤ（タイ）、ホイアン（ベトナム）、長崎・平戸（日本）

・江戸（日本）、首里（琉球）、ゼーランディア（台湾）、アムステルダム（オランダ）

（太字は世界遺産）

→文化資源である陶磁器の動きから影響を探る

※交易・流通・交流に対しての上位概念は？：文化、経済、社会？

→モノの移動と文化の移動

→外来と在地化

ex,　鎖国とは？

貿易陶磁器とは？→輸出入された陶磁器

その中心は磁器（磁器生産可能国：中国、朝鮮、日本）

※中国磁器が規範となる国際貿易商品

→中国磁器に類似する磁器、陶器が各地で生産される

２．国際関係の変化と各地に流通する貿易陶磁器

（１）中世末～近世の東アジアの国際関係

※周辺地域との影響関係が中世末から大きな変化

→日本の政治・経済に大きな影響

①16世紀後半の国際関係－ヨーロッパ勢力の参入

○中国

・明の海禁政策：朝貢貿易システムと倭寇 → 琉球の優位性と密貿易

・税制の改革：一条鞭法の施行 → 銀の需要

○日本

・金・銀の産出量増加 → 東アジアで重要な一員、技術、文化の急速な流入

・多元的な貿易管理（大友、大内、島津、織田など）

○ヨーロッパ勢力の参入

・国際関係の複雑化

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

②17世紀前葉から中葉の国際関係－中国の争乱

○中国

・明・清の動乱、鄭氏の影響 → 清による海禁策（遷海令：1661～1684）

○日本

・徳川氏による天下統一 → 一元的な貿易管理

○ヨーロッパ勢力

・オランダに淘汰 → 宗教と隔離

③17世紀中葉から後葉以降の国際関係－清朝による東アジア国際秩序

○中国

・清の統一 → 清による海禁策解禁

○日本

・徳川氏による貿易統制 → 小中華的国家戦略（朝鮮、琉球）

→ 資源の枯渇化

○ヨーロッパ勢力

・日本の位置的変化 → ロシア、アメリカなど

（2）近世東アジアの貿易ネットワーク

○アジア貿易ネットワークと日本

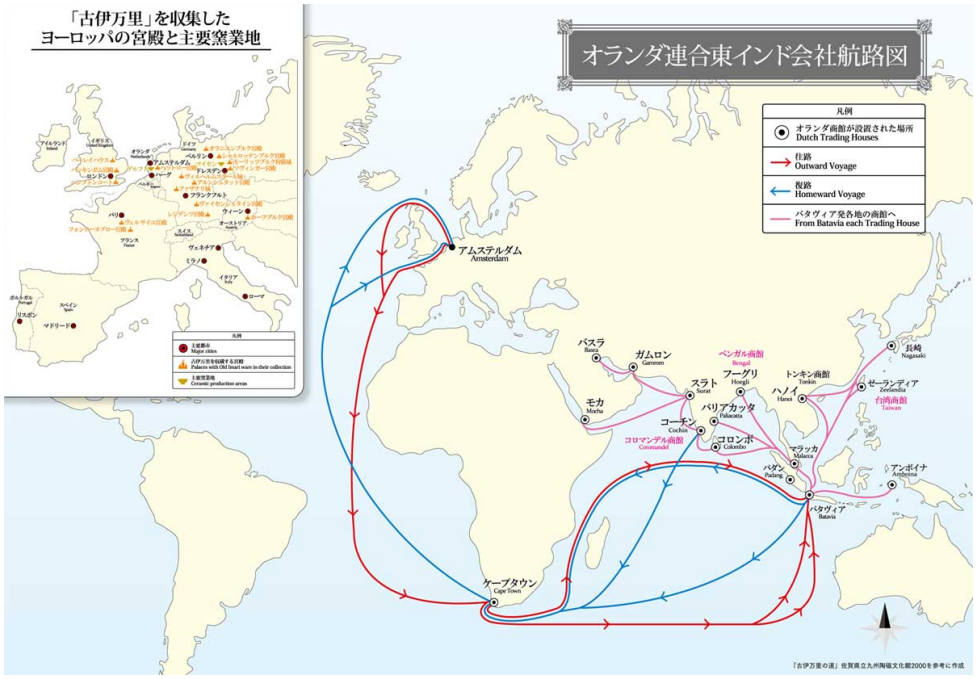
・中　　国：ジャンク船、アジア貿易

・朝　　鮮：歳遣船他、アジア貿易

・オランダ：オランダ東インド会社、アジア貿易＋アジア－ヨーロッパ貿易

・スペイン：ガレオン船、アジア－新大陸－ヨーロッパ貿易

・イギリス：18世紀以降参入、アジア（インド）－ヨーロッパ貿易



日本経済新聞社主催「日本磁器ヨーロッパ輸出350周年記念　パリに咲いた古伊万里の華展」（2009～2010）の 図録から転載

オランダ東インド会社の主要航路と商館

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

※対日貿易品は、輸出入とも国が変わっても大きく異なっていない
→対日貿易ネットワークの特徴
アジア間貿易中心→オランダは日本とアジア間貿易を行っている

（３）日本

①江戸

中国、朝鮮、琉球、タイ、ミャンマー、ベトナム、ヨーロッパ
近世に最も多く流通・消費された生産地は中国

〇近世初頭に日本の（貿易）陶磁器流通の大きな画期→日本の独自性の形成

・肥前磁器の生産開始 →1610年代
・中国からの磁器輸入減少・停止 → 17世紀中葉～
→日本国内の磁器需要は、17世紀中葉以降、ほぼ肥前磁器によって充足
・茶の湯の成立
① 17世紀、肥前磁器普及以前の生活用品として需要
② 上級武士にみられる武家儀礼の道具として需要
③ 18世紀後半以降に、煎茶器など文人アイテムとして需要
④ 茶の湯の中で需要
⑤ 流通容器として、中に入れられているものの　　需要

ex, ④**茶**　座敷飾りの近世的変容と茶の湯
・『君台観左右帳記』に書かれた座敷飾り
→16世紀初頭に成立
→同朋衆の能阿彌、相阿彌が編纂し　た室町将軍の室礼の規範書
→器物の賞翫が中心
→唐物の評価
・茶の湯 千利休
→武家権力との接近による町人茶の　権威化
→武家儀礼の中に茶の湯が位置づけ

②長崎・平戸

〇長崎 －輸出資料：栄町遺跡　寛文3（1663）年の火災出土資料－

・1571年、大村純忠、イエズス会によって建設
※当初から貿易港として発展
キリシタンとの関係→キリシタンの禁令
・1639年、ポルトガル人強制退去
・1641年、オランダ商館が平戸から移転

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

西暦	和暦	船	品名	個数	単位	備考
1641	寛永18年	安海船	茶碗	1400	個	
1641	寛永18年	安海船	茶壺	70	個	
1641	寛永18年	安海船	茶壺	80	個	
1641	寛永18年	福州船	茶壺	80	個	
1641	寛永18年	福州船	茶壺	710	個	
1641	寛永18年	広東船	茶壺	2	個	
1642	寛永19年	福州船	茶壺	78	個	
1643	寛永20年	南京船	陶器	11	俵	
1646	正保3年	福州船	粗陶器	若干		
1646	正保3年	福州船	茶壺	若干		
1646	正保3年	南京船	陶器・雑貨	12	籠	
1646	正保3年	福州船	陶器	若干		
1647	正保4年	福州船	茶壺	1	個	正保3年に記載
1649	慶安2年	福州船	粗陶器	5	枚	
1650	慶安3年	璋州船	茶壺	6	個	慶安2年に記載
1650	慶安3年	福州船	皿	5	枚	
1650	慶安3年	漳州船	茶壺	10	個	
1650	慶安3年	漳州船	陶器	7	包	
1650	慶安3年	福州船	茶壺	10	個	
1651	慶安4年	舟山船	粗陶器	7	枚	
1651	慶安4年	福州船	粗陶器	20	包	
1651	慶安4年	福州船	中国水差し	1	箱	
1652	承応1年	福州船	各種粗陶器	20	包	
1653	承応2年	柬埔寨船	茶碗	47	束	
1653	承応2年	南海船	粗陶器	342	束	
1653	承応2年	福州船	陶器	4	束	
1653	承応2年	東京船	各種茶碗	82	束	
1654	承応3年	南海船	茶壺	2	個	
1654	承応3年	南京船	茶壺	36	個	
1654	承応3年	福州船	陶器	200	斤	
1655	明暦1年	安海船	オランダ水差し	5	個	
1657	明暦3年	福州船	花模様鉢	15	個	
1657	明暦3年	安海船	茶壺	2	俵	
1657	明暦3年	安海船	珍奇茶壺	1	個	
1660	万治3年	安海船	茶壺	9	個	
1660	万治3年	羅船	茶壺	1	個	シャム船
1663	寛文3年	安海船	陶器	20	箱	
1666	寛文6年	船1隻	茶壺	2	個	
1749	寛延2年	二番乍浦船	中国陶器	67	俵	
1753	宝暦3年	四番乍浦船	陶器	4	包	
1753	宝暦3年	九番乍浦船	各種陶器	27	包	
1754	宝暦4年	十四番乍浦船	陶器	46	包	
1754	宝暦4年	二十六番南京船	皿	96	枚	
1754	宝暦4年	二十八番乍浦船	カントン陶器	6	箱	

唐船長崎輸入陶磁器一覧（永積洋子1987『唐船輸出入品数量一覧』より作成）

○平戸　－輸入資料：1616年オランダ商館造成石垣出土資料－

・1612年　オランダ商館設置（～40）

・1616年　イギリス商館設置（～23）

平戸オランダ商館跡出土（1616年）

平戸市文化観光商工部 文化交流課協力
※この画像については、無断での二次利用・複製を禁止します

堺環濠都市遺跡出土（1615年）

所蔵：堺市教育委員会事務局文化財課
※この資料については、無断での二次利用・複製を禁止します

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

（4）琉球

①中世

琉球第二尚氏王朝：15世紀以降東南アジアとの中継貿易によって隆盛

「明史」には琉球が朝貢した回数が最も多く記載

→高い頻度の朝貢は経済的活動による繁栄を裏付ける

ex，首里城、今帰仁城などの出土資料

〇出土資料

首里城京の内の資料

→1459年の火災？

→朝貢貿易の中で下賜された官窯製品と交易品と思われる民窯製品とが共伴

・製品の内容

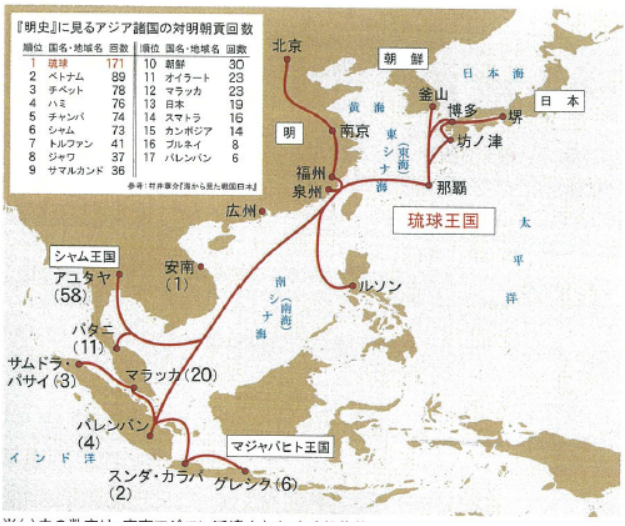
当該期の日本本土で出土している遺物との共通性が高い

↓

※日本を含めた陶磁器貿易のネットワークを構成

首里城内郭、京の内SK01出土貿易陶磁器

沖縄県立埋蔵文化財センター　2012　『大型青磁が彩る緑の空間～海を渡った焼物～』ｐ８
首里城京の内跡出土陶磁器（重要文化財）



『明史』に見るアジア諸国の対明朝貢回数

沖縄県立博物館・美術館2007『博物館展示ガイド』p35より抜粋

②近世

琉球王国として独立国＝異なる社会、経済、文化

→中国と日本（薩摩）との関係

＝ 両属的関係

・1609年薩摩の侵攻・支配

将軍に使節を送る

慶賀使：謝恩使：琉球王の代替わりに使わされる使節

慶賀使：将軍の代替わりに使わされる使節

・中国との国交－朝貢国（冊封体制）

→ 明朝から清朝に継続

進貢使：中国皇帝に貢物を進貢

冊封使：冊封のため中国皇帝の任命書を持って行く使者

那覇市渡地村遺跡の出土状況

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

※中継貿易の衰退

・16世紀の西洋諸国の東南アジア進出

・明朝の衰退

・17世紀の薩摩侵攻･支配

〇出土資料

年代的定点になるような良好な資料は少ない

・沖縄の消費遺跡の特徴：一括資料が良好な状態で確認されない

※廃棄行為・地質の差異

→最も一般的な廃棄方法である「穴を掘って埋める」という行為が行われない

※一括資料から年代、社会その他へ昇華する考察が行えない

→これまでは器種別に報告書に掲載

ex, 渡地村遺跡の状況

・磁器：貿易品のみ

中国磁器－特に福建・広東の製品－が多く出土

日本（伊万里）が2～3割程度混じる→日本本土とは大きく様相が異なる

cf. 広東碗→上焼→スンカンマカイ（瀬戸、砥部）

・陶器：国産品と貿易品

琉球陶器：喜名窯、知花窯、湧田窯から1670年壺屋窯へ統合

中国、タイ、ミャンマー、ベトナム：貿易品および貿易品のコンテナ

日本：肥前、薩摩の他、瀬戸・美濃、備前、京都・信楽などが少量混じる

（5）ゼーランディア、北港（台湾）

〇台湾の歴史

・先史時代（-1624）

・オランダ時代(1624-62)、(スペイン1626-42)

→ゼーランディア（台南市）

・鄭氏政権（1662-83）

・清朝（1683-1895）

→北港（台湾中部）、社内遺跡（台南市）

・日本統治時代（1895-1945）

→台北駅

〇清朝の台湾統治

・1624-62　オランダ占拠

・1662-83　鄭氏政権

・1683　清朝鄭氏から台湾を制圧

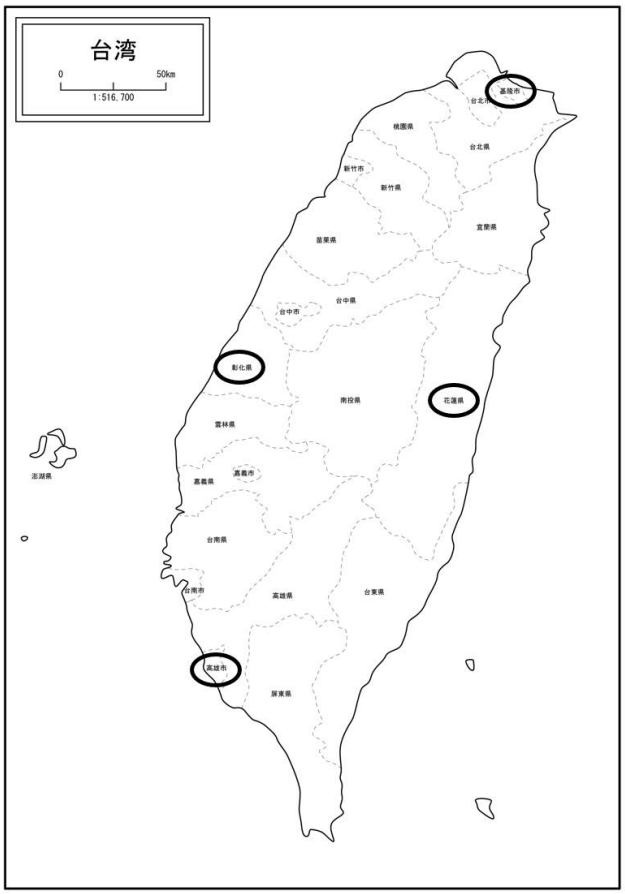
→当初から領有に消極的「化外の地」

→軍事的意味から福建省に編入

1府3県（台南、高雄、嘉義）

・移民の禁止（男のみ可）

→密航と混血が進行



台湾の都市の位置

©白地図専門店

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

1811年人口195万人
1893年人口255万人
・原住民と居住区を分離
・砂糖産業の発展→日本へ
・1885　国防上の理由から台湾省設置
・1895　日本領に編入（～1945）
〇北港遺跡
※近世後期の台湾の流通ルート
メインゲート：基隆、彰化、高雄
雲林県北港（古笨港）は中継港
→媽祖廟朝天宮(1694)中心に繁栄、北港渓沿いに港が展開→清朝期の陶磁器が出土

ゼーランディア城出土福建省磁器

朝天宮

北港出土遺物

（6）ホイアン（ベトナム）
阮朝（1558-1777）の国際貿易港として発展
ポルトガル、オランダ（1623-39）、日本（1601-35）、中国の貿易拠点が成立
→清朝の遷海令（1661）前後から日本磁器が確認
徐々に衰退
ex, 日本橋周辺の出土資料
17世紀前半以前：中国景徳鎮の上質磁器を含む→貿易品
17世紀後半：日本の伊万里が出土→貿易品か？
18世紀以降：中国福建の粗製碗などが主体→生活用品？

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

by Clarin from Wikimedia Commons ref. 20171227
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:LocMap_of_WH_Hoi_An_Ancient_Town.png
GFDL

ホイアンの位置

ホイアンの町並み

17世紀の中国磁器

19世紀の中国磁器

（7）アユタヤ（タイ）

アユタヤ王朝（1351-1767）の首都として発展

ポルトガル（1516-）、オランダ（1592-）、日本（16C後葉-1635）、イギリス・フランス（17C後半-）

日本人勢力が拡大→山田長政

※国際交易の拠点、消費都市としての性格

ex，オランダ商館跡出土資料

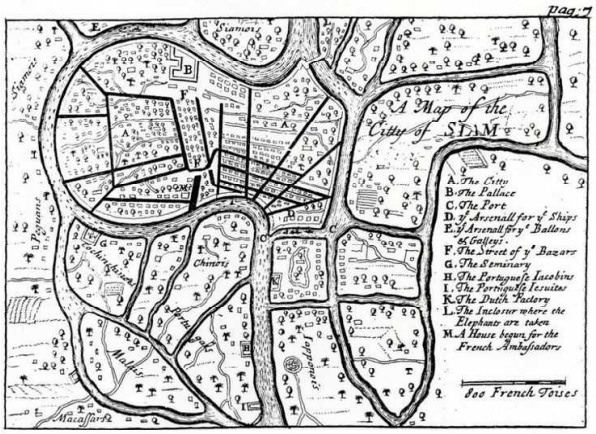
17世紀前半：中国景徳鎮・漳州の上質な磁器が含まれる→貿易品

17世紀後半：日本（伊万里）磁器が含まれる→貿易品か？

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　　CC BY-NC-ND

by あなん from Wikimedia Commons
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:LocMap_of_WH_Ayutthaya.png
ref. 20171227
GFDL

アユタヤの位置



アユタヤの日本人町とオランダ商館跡

by Clarin from Wikimedia Commons　ref. 20171227
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:LocMap_of_WH_Hoi_An_Ancient_Town.png
GFDL

中国景徳鎮磁器

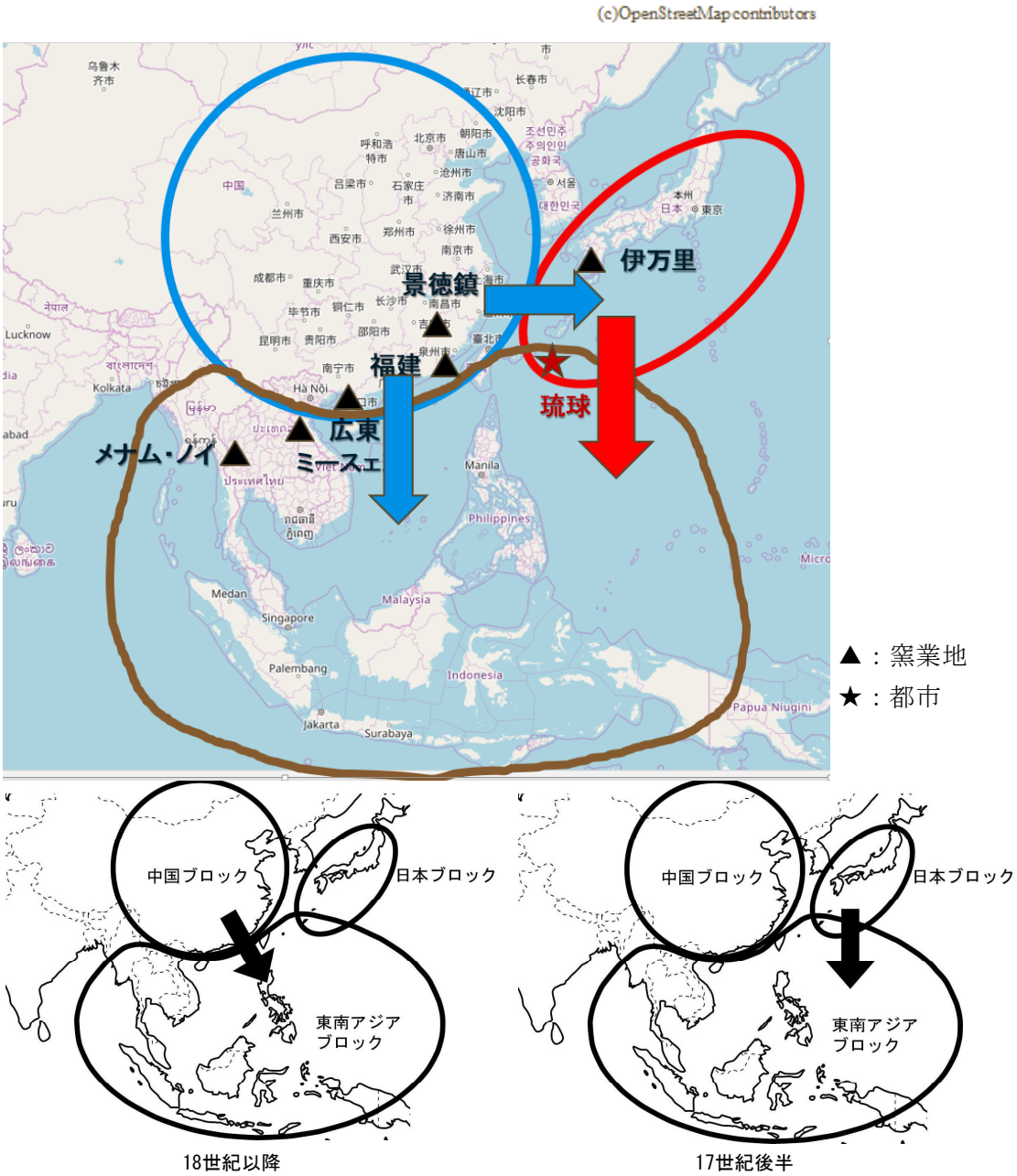
伊万里磁器

３．貿易ネットワークと流通ブロック

		磁　器	陶　器
中　　国	→	自国＋輸出	自国＋輸出
日　　本	→	自国（＋輸出）	自国
朝　　鮮	→	自国？	自国？（調査事例が少なく不明）
ベトナム	→	輸入	自国（＋輸出）
タイ	→	輸入	自国（＋輸出）
その他	→	輸入	輸入

〇大きなブロック：中国ブロック、日本ブロック、東南アジアブロック
日本、ホイアン、アユタヤ、台湾、琉球の状況

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　　CC BY-NC-ND



近世東アジアの陶磁器ブロック

堀内秀樹2014「「近世都市江戸の貿易陶磁器」の視点」より抜粋

※日本ブロックの成立→近世的様相

文化財（「世界遺産」、「文化遺産」）としての評価視点は遺跡（小地域）単位で行われる
　→しかし、こうした遺跡は、他地域と複合的・有機的に機能するシステムの一部

○「世界遺産」の分類→文化遺産、自然遺産、複合遺産
　・「文化遺産」の定義：顕著な普遍的価値をもつ建築物や遺跡など
　＊登録基準（抜粋）
　(2)ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND

画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの

(3) 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠

(4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。

(5) ある文化（または複数の文化）を代表する伝統的集落、あるいは陸上ないし海上利用の際立った例。もしくは特に不可逆的な変化の中で存続が危ぶまれている人と環境の関わりあいの際立った例。

(6) 顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と直接にまたは明白に関連するもの（この基準は他の基準と組み合わせて用いるのが望ましいと世界遺産委員会は考えている)。

※アユタヤ（3)、ホイアン（2)、琉球（2)、(3)、(6)

→しかし、歴史時代の遺跡は他地域と複合的・有機的に機能するシステムの一部

※場の情報に加えて、他地域との対比、影響を踏まえて評価を行うべきだろう

○痕跡化した行為→種々の「資料」（＝文化資源）となる

【参考文献】

石田千尋　1994　「長崎貿易の精華－その輸入品をめぐって－」『鎖国・長崎貿易の華　ギヤマン／更紗／金唐華』神戸市立博物館

沖縄県立埋蔵文化財センター　2012　『大型青磁が彩る緑の空間～海を渡った焼物～』

沖縄県立博物館・美術館　2007　『博物館展示ガイド』

国立歴史民俗博物館　2005　『東アジア中世海道　海商・港・沈没船』

長崎県教育委員会　2001　『栄町遺跡』

永積洋子　1987　『唐船輸出入品数量一覧』創文社

堀内秀樹　2014　「「近世都市江戸の貿易陶磁器」の視点」『貿易陶磁研究』NO.34

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義　2017　堀内秀樹　CC BY-NC-ND